

第3回 鴨川市地域福祉推進会議 会議録

日時：平成27年3月24日（火）

午後1時30分～2時58分

場所：鴨川市総合保健福祉会館
2階研修室

[出席者]

No	選出区分	所属（職名）	氏名	備考
1	福祉事業 関係者	鴨川市社会福祉協議会会長	服部 克巳	
2		鴨川市民生委員児童委員協議 会会長	榎本 豊	
3		鴨川市ボランティア連絡協議 会会長	井田 眞一	ボランティア団体代表
4		鴨川市老人クラブ連合会理事	篠原 榮治	高齢者団体代表
5		鴨川市心身障害者(児)福祉会 会長	栗原 定雄	身体障害者、知的障害者 団体代表
6		NPO 法人タなぎ理事長	鎌田 麻子	精神保健福祉士
7	地域団体等 の関係者	鴨川市子ども会育成連盟会長	仲澤 博	
8		鴨川市商工会 商業部会長	四井与志雄	
9		鴨川市主任児童委員	根本 礼子	鴨川市国際交流協会理事

[欠席者]

No	選出区分	所属（職名）	氏名	備考
1	学識経験者	城西国際大学大学院 福祉総合学研究科長	増子 勝義	

[事務局]

所属・職	氏名
鴨川市福祉課長	羽田 幸弘
鴨川市健康推進課長	牛村 隆一
鴨川市福祉課 課長補佐	大久保 孝雄
鴨川市福祉課 主査	石渡 一光
鴨川市福祉総合相談センター 主任保健師	田中 和代

[オブザーバー]

所属・職	氏名
鴨川市社会福祉協議会	角田 佐智子
〃	高橋 徹
〃	竹井 徹

[資料]

- ・ 次第
- ・ 席次表
- ・ 委員名簿
- ・ 資料 1 鴨川市地域福祉計画重点項目・基本的施策の展開（平成25・26年度）
- ・ 資料 2 鴨川市地域福祉計画の評価方法について
- ・ 参考資料 鴨川市健康福祉推進計画【概要版】

1 開会（午後 1 時30分） 司会 福祉課 大久保課長補佐

配布資料の確認、交代委員の紹介、欠席委員及び会議成立の報告。

また、会議録作成のため録音を行う旨の了承を得るとともに、その会議録は市政情報コーナーへの配架、ホームページに掲載する旨を説明する。

2 あいさつ 福祉課 羽田課長

（要旨）

本日は第 3 回地域福祉推進会議の開催に当たり、年度末のお忙しい中にも関わらず、お集まりいただきましてありがとうございます。

また、委員の皆様には、本計画の策定当時から施策の推進に関し、貴重なご意見をいただき、重ねて感謝申し上げます。

本日は、平成 25、26 年度の取り組み内容の報告、平成 27 年度に重点的に取り組む内容の説明をはじめ、評価方法についてのご協議を予定しておりますので、よろしくご審議のほどをお願いいたします。

3 委員長の選出、会議録署名人の選任

前委員長の退任に伴い、新たに委員長を選出するため、榎本副委員長を議長として進行。全会一致により、榎本委員を互選した。

また、現副委員長の委員長就任により副委員長が空位となるため、榎本新委員長が引き続き、副委員長を選出するため議長として進行。全会一致により井田委員を互選した。榎本委員から委員長就任のあいさつ後、会議録署名人に仲澤委員を指名する。

4 議事 議長 榎本委員長

鴨川市地域福祉推進会議設置要綱第5条第1項の規定により、榎本委員長を議長として進行。

議事1 平成25・26年度の取り組み状況について

議事2 平成27年度における重点的取り組み事項について

(相互に関連する議事であるものとし、議事1及び議事2を一括審議することとした。)

事務局より、資料1に沿って説明。資料のとおり確認された。

説明後における委員からの発言については、次のとおり。

(服部委員)

2頁の2-(1)のささえあう意識の形成についてであるが、福祉教育推進校の指定を受けた長狭高校、長狭学園の両校生徒から、福祉教育の一環として実践した、学んだことなどを作文として公募し、鴨川市社会福祉協議会が来年度の開催を予定する第3回福祉フェスティバルで発表してみてもどうか。思いやりの心の育成に寄与するものと考えられ、既に福祉作文コンテストを実施している南房総市では好評を博している。

また、3頁の2-(1)-①の買い物支援については、市街地から遠距離にある大山及び吉尾の両地区フォーラムにおいて課題として挙げられたが、その市街地でも、自宅とバス停留所が離れているなど、買い物支援を求める声は少なくない。

この買い物支援に当たっては、ちょっとした困りごとを手助けする介護予防サポーターの活用が有効であり、これを全市的に拡大していく取り組みが必要。

(鎌田委員)

3頁の3-(2)児童や高齢者・障害者等への虐待予防と対応についてであるが、平成24年10月の障害者虐待防止法の施行後における全国初の事例は、当県南地域の障害者施設で発生しているが、このことが他地域に先駆けて虐待防止に取り組む契機ともなっている。

一般市民向けの啓発活動も重要であるが、安全で安心した生活環境の創造に向け、パート職員も含めた施設職員向けの啓発活動を併せて実施し、人材の育成支援、社会基盤の体制強化の推進を図っていただきたい。

⇒（羽田課長）

鴨川市虐待防止対策委員会並びに鴨川市虐待防止啓発企画会議は、高齢者、児童及び障害者といった枠を超えて虐待防止に取り組む一方で、それぞれの分野に専門分化した取り組みも実施している。特に高齢者分野は、先駆的に専門職向けの啓発、研修機会の提供などを実施しているため、障害者分野においても、今後どのように取り組むかを検討していきたい。

（榎本委員長）

児童分野でも、いじめなどの問題が山積しているなので、よろしくお願ひしたい。
ところで、サロンの開催状況等についてはどうか。

⇒（服部委員）会場が近隣であれば問題ないが、遠方や足が不自由な方にとっては、サロンまでの送迎手段が課題となっている。

（井田委員）

ボランティアについてであるが、福祉ニーズとしての需要が高まる一方で、高齢化とそれに伴う会員の減少等に伴い活動範囲が狭まっている現状にあるため、対応が困難な状況となっている。

平成27年度には、鴨川市社会福祉協議会の主催により、今後のボランティア活動を担う人材を育成するため、比較的年齢の低い方々を対象としたボランティア研修を企画しているため、是非、行政にも関わっていただきたい。

地域福祉の推進にボランティアは欠かすことのできないものであり、「ボランティアに定年はない。」と、特定非営利活動法人日本地域福祉研究所の大橋理事長も言われている。

行政と社会福祉協議会が協働して、新たな担い手づくりに繋がるシステムを検討していただきたい。

（仲澤委員）

子ども関係のボランティアに携わっているが、一概にボランティアといっても幅が広く、その育成は難しいと感じている。

（根本委員）

なの花サポーターとして活動しているが、新たな「なり手」は殆どいない状況にある。新たな人材の獲得に向けたシステムづくりをお願いしたい。

（栗原定雄委員）

主基地区ではサロンが5か所あり、ささえあいサポーターが関わっている。そのサポーターの方々をボランティア研修に参加するよう要請してはどうか。

また、高齢者のふれあいと見守りを兼ねた廃品回収を年1回実施しているが、自主財源確保の有効な手段であるため、各地区社会福祉協議会でも取り組んでみてはどうか。

(井田委員)

福祉作業所でも、自主財源確保の一環として段ボール回収を行っているので、是非、ご協力をお願いしたい。

(四井委員)

ボランティア活動は社会福祉協議会が中心となって実施していると思われるが、活動に協力しているグループ等があれば教示して欲しい。

ボランティア活動は、人と人との触れ合いを通じた人格形成に資する有意義な活動であるので、この好影響を前面に打ち出した協力・支援を呼び掛けてみてはどうか。

⇒ (羽田課長) 地区社会福祉協議会の構成メンバーが福祉ボランティアを兼ねている場合や、PTAをはじめとした地域の組織が参画するなど、地域によって様々である。

また、民生委員が関わる地区社会福祉協議会が大勢を占めるが、大学生とのボランティアとスクラムを組んで取り組む地区社会福祉協議会もある。

議事3 鴨川市地域福祉計画の評価方法について

事務局より、資料2に沿って説明。資料のとおり決定された。なお、説明後における委員からの発言は次のとおり。

(榎本委員長)

まずもって課題の洗い出しと検証が重要である。

(鎌田委員)

計画策定後の状況変化、新たな課題の発見などにより、現状の課題がより鮮明となる。原案の評価表に沿って、是非、取りまとめていただきたい。

(服部委員)

評価表の作成は事務局が行うものか。

⇒ (大久保課長補佐) 施策内容に応じた所管部署にてそれぞれ記載することを想定している。なお、内容によっては複数課に跨る場合もあります。

(四井委員)

評価方法は。

⇒ (大久保課長補佐) 定性評価となるため、自己採点方式による評価方法となります。

議事 4 次回会議の開催時期について

事務局より、次回会議の開催時期について資料2に基づき説明。作成された評価表の点検・検証を行うため、その結果が取りまとまる7月頃の開催を目途とし、日程等が決定次第、改めて案内する旨説明し、了解を得た。

6 閉会（午後2時58分）

以上

鴨川市附属機関等の会議の公開に関する実施要領第7条第3項の規定により会議録の内容について確認します。

平成27年 3月31日

仲 澤 博
